※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１８

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	古典探究	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校「古典探究」（数研出版）						
副教材等	古典文法ワークノート（第一学習社） 新国語総合ガイド（京都書房）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・音読を通じて日本と中国の古典文学に親しみましょう。
・さまざまなジャンルの作品に親しむとともに、正しく内容や、登場人物の心情等を理解するために語彙力や古典文法の知識をしっかりと身に付けてください。
・作品に描かれた人物の行動や心理、考えを読解し、人の生き方を考えてみましょう。
・文学史や昔の人の生活を学び、時代のあり方と生活のつながりについて考えましょう。
・予習として必ず本文を読んでおきましょう。授業の後には内容を振り返って復習してください。
・提出物の期限は守りましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。

2　学習の到達目標

・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，古典などを通した先人のものの見方，感じ方，考え方との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「読むこと」の領域において，論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，古典などを通した先人のものの見方，感じ方，考え方との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり，思いや考えを広げたり深めたりしながら，言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに，進んで古典に親しみ，言葉を効果的に使おうとしている。

※令和４年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
1学期	・「丹後へ遣はしける人は参りたりや」とは、どのようなことを言おうとしたのか説明する。 ・「大江山……」の歌で、小式部内侍が伝えようとしたことを説明する。 ・「返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけり」とは、誰がなぜそのようにしたのか説明する。 ・「大江山」はどのような教訓を示すために収録されていると考えられるか話し合う。 ［教材］説話/大江山（十訓抄）	a：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。［⑵イ］ b［読］：必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。［A⑴ウ］ c：積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	定期考査 音読	定期考査 ワーク	授業態度 学習課題の提出
	・　第二段落では、何が「すさまじきもの」とされているか。まとめる。 ・「ゆるぎありきたるも、いとをかし。すさまじげなり」とはどういうことか。説明する。 ・現代語「すさまじい」の意味を調べ、古語「すさまじ」からの意味変遷の歴史をまとめる。 ［教材］随筆㈠/すさまじきもの（枕草子）	a：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。［⑵イ］ b［読］：文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。［A⑴イ］ c：「すさまじ」の意味変遷の歴史について進んで調べ、学習の見通しをもって本文理解を深めようとしている。	定期考査 音読	定期考査 ワーク	授業態度 学習課題の提出
	・訓読で教材を朗読する。 ・音読みによる直読で教材を朗読する。 ・口語訳で教材を朗読する。 ・三種類の朗読から受ける印象の違いを話し合う。 ［教材］故事／画竜点睛（歴代名画記）	a：時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解している。［⑵ウ］ b［読］：古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。［A⑴ク］ c：朗読から受ける印象の違いを話し合う活動において、積極的に話し合いに参加している。	定期考査 音読	定期考査 ワーク	授業態度 学習課題の提出
	・単元内の教材の学習を踏まえて、漢詩の規則を確認する。 ・「春」をテーマとした七言絶句を作る。 ［教材］漢詩／鹿柴、山中対酌、旅夜書懐	a：古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。［⑴エ］ b［読］：文章の種類を踏まえて，構成や展開などを的確に捉えている。［A⑴ア］ c：漢詩の創作に粘り強く取り組んでいる。	定期考査 音読	定期考査 ワーク	授業態度 学習課題の提出
2学期	・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。	a：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。［⑵イ］	定期考査 音読	定期考査 ワーク	授業態度 学習課題の提

※令和４年度以降入学生用

	・「一の皇子」と「玉の男皇子」とに対する帝の接し方の違いを説明する。 ・帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。 ［教材］物語/光源氏誕生（源氏物語）	b[読]：古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。［A⑴オ］ c：登場人物の心情とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。			出
	・「生ひ立たむ……」と「初草の……」の歌について、「若草」「露」「初草」が何をたとえているか、それぞれの歌は何を訴えようとしているか、説明する。 ・光源氏は「女子」のどこに興味をひかれているのか、説明する。 ［教材］物語/小柴垣のもと（源氏物語）	a：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。［⑵イ］ b[読]：文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。［A⑴イ］ c：積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	定期考査 音読	定期考査 ワーク	授業態度 学習課題の提出
	・「鴻門の会」の読解を踏まえ、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。 ・「四面楚歌」「項王自刎」の読解を踏まえ、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。 ［教材］ 史伝/鴻門之会・項王自刎	a：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。［⑵イ］ b[読]：文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。［A⑴イ］ c：本文から読みとった項羽や劉邦の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察し、主体性をもって話し合いに参加しようとしている。	定期考査 音読	定期考査 ワーク	授業態度 学習課題の提出
3学期	・道長と伊周はそれぞれどのような人物として描かれているか、まとめる。 ・道隆が、「色青く」なったり、「な射そ」と言ったりした理由を考える。 ・「いま二度延べさせ給へ」という発言の真意はどこにあるのか、話し合う。 ［教材］歴史物語/南院の競射（大鏡）	a：古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。［⑵イ］ b[　　]：必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。［A⑴ウ］ c：一語の解釈の違いで発言全体の真意がどう変わるか粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	定期考査 音読	定期考査 ワーク	授業態度 学習課題の提出
	・諸子百家の文章から現代に通じる考え方を探し、文章としてまとめる。 ［教材］道徳斉礼（論語）、性善（孟子） ［教材］	a：先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。［⑵エ］ b[読]：古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。［A⑴オ］ c：諸子百家の文章から現代に通じる考え方を粘り強く見いだし、積極的に文章に表そうとしている。	定期考査 音読	定期考査 ワーク	授業態度 学習課題の提出

４　学習の活動

※表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　　１０　　）時間

・書くこと　…　（　　１０　　）時間

・読むこと　…　（　　５０　　）時間